

啓蒙活動をより広く

故・伴 淳三郎代表



私たち芸能人が中心になってはじめて重症心身障害救済活動運動も年々規模も大きくなりその啓蒙と実践運動は一般社会に浸透し国民運動に発展しつつある。

(昭和40年当時)

まず、てはじめに心身障害の子たちのために、少しでもお役にたちたい、そんなことでこの運動の方向が打ち出されました。

私たちはロケ先で、劇場、車中で、そして施設にいきその子供たちを抱き上げ、親たちの話に耳を傾けそして一般社会の人たちにそういった施設の子たちのことを訴え続けました。

いつの間にか「あゆみの箱」の運動は身障への募金から、愛と理解の心を集めるまで発展しました。

その啓蒙と実践運動も活発になり、子供たちまで「あゆみの箱」といえば肯くようになりました。

第2回のチャリティショーでは、200人余りの芸能人の無料出演という協力を得、それに三笠宮殿下、秩父宮妃殿下それに各界の有志の方々をはじめ、1200の客席を埋め、全国の心身障害児に限りない愛が集められました。

当日の収益金は約834万円、一年間の募金総額は1762万円に達しました。その善意のお金は、福祉施設積立金を除き、全額を全国の67施設へ寄贈いたしました。

「あゆみの箱」も社会福祉助成事業をより強力に推し進めるため、法人化にし社団法人として発足し、心身障害者(児)にかぎらず、精神薄弱者(児)老人福祉等の事業を集約し、ゆりかごから墓場までの社会福祉の灯をかかげて目的大成のため、私たち芸能人は一丸となって社会のお役にたちたい所存です。

(昭和41年7月1日 第一回会報より)